

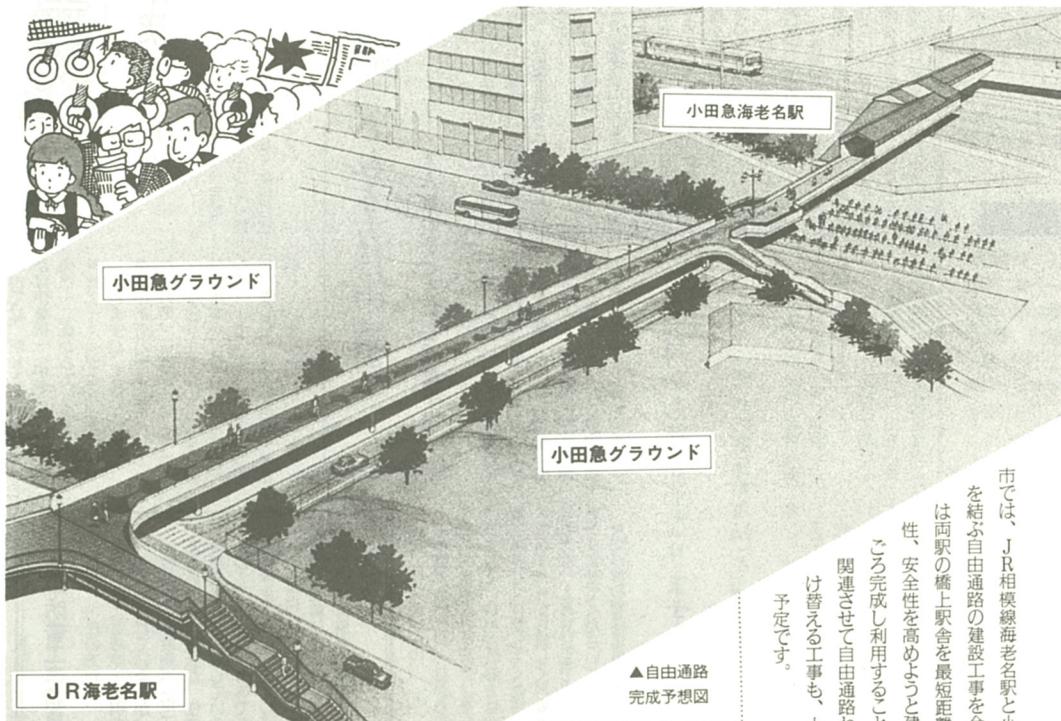
世帯と人口  
(昭和63年1月1日)  
世帯 31,152 (-10)  
人口 98,817人 (+22)  
男 50,788人 女 48,029人

# 広報えひな

編集・発行  
海老名市役所秘書広報課  
〒243-04  
神奈川県海老名市国分155  
☎ (0462) 31・2111



## 乗り換えが楽に



## JR・小田急両駅間170㍍に建設

### 海老名駅に自由通路

市では、JR相模線海老名駅と小田急線・相模鉄道海老名駅を結ぶ自由通路の建設工事を今月から始めます。この通路は両駅の橋上駅舎を最短距離でつなぎ、駅利用者の利便性、安全性を高めようと建設されるもので、今年八月ごろ完成し利用することができます。また、これに関連させて自由通路わきの市道を同通路真下に付けて替える工事も、十二月完了を目指して順次行う予定です。

今月から  
工事開始



JR相模線海老名駅は去年三月、首都圏内最後の国鉄駅として開業しました。同駅は小田急線・相模線海老名駅の西口から距離が約百七十㍍である(?)ことから利用客も多く、現在は一日約六千八百人が利用、今後も増加する傾向にあります。

しかし、二つの海老名駅を乗り継ぐ場合、利用客はいったん

道路に下りたあと階段を上り下りしなければならず、駅相互の連絡に欠けています。

JRなどの関係機関と協議を重

ね、両海老名駅を橋上型の自由通路で連結することを決定、今月から工事を開始します。

この自由通路はJR相模線海老名駅東口の通路から小田急線駅の橋上駅舎改札口と同じ六ヶ所を直結するもので、高さは両駅の真下に七㍍道路(車道幅五㍍、歩道幅二㍍)を新設します。これらの工事は年内には完了す

二つの海老名駅にやがて自由通路が完成(白線部)

### 完成待ち遠しい

大沢京之さん(門沢橋)



「通勤時はたとえ一分間でも貴重ですから、どうしてても早足になり、JR海老名駅や小田急線ホームの上り下りは、運動不足の体になってしまいます。それに両駅舎の間にある市道では、走行車両を確認せずに車道を横断する通勤者も多いようです」

大沢さんによると

「JR相模線海老名駅を利用するようになつてから、乗り換えもなく気分的にゆとりがありました」

と語るのは、大沢京之さん(38歳)。大沢さんは通勤に自宅近くのJR門沢橋駅から会社のある相模線さがみ野駅まで電車を利用している。

以前は厚木駅で小田急線に乗り換えていたが、JR海老名駅開業当初から同駅を利用。

そんな大沢さんの悩みは、JR海老名駅から相模海老名駅までの「山あり谷あり」の道のりだ。

「JR相模線海老名駅を

利用するようになつてから、乗り換えもなく気分的にゆとりがありました」

JR相模線海老名駅を

利用するようになつてから、乗り換えもなく気分的にゆとりありました」



# こんな時税金は戻ります

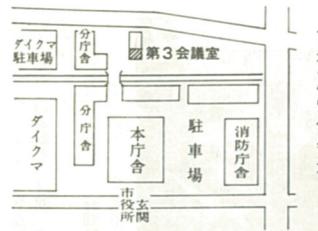
確定申告と市・県民税の申告  
受付を、二月十六日から三月十五日まで、市役所第三会議室で行います。ただし、譲渡所得の申告は厚木税務署です。平日が午前八時半から十一時半まで、午後四時半まで、土曜日が午前八時半から十一時半までです。案内図を市役所玄関前市民課窓口などに掲示しますので、ご参考ください。

## 第3会議室で受付

### 確定申告と市・県民税の申告



申告はお早めに… (写真は去年の申告受付会場)



市役所受付会場

### 厚木税務署案内図

## こんな方は申告を

### 税理士会の無料相談

税理士会厚木支部では、無料で確定申告書の書き方の指導を行っています。なお、還付申告の相談もしています。ご利用ください。

【とき】 2月18日、19日、3月3日～5日。午前9時半～午後4時、ただし土曜日は正午まで。

【場所】 海老名市中央公民館2階

【申込】 事務所へお問い合わせください。

【料金】 無料

【連絡】 厚木税務署 (046-211-3456)

【連絡】 市役所玄関前市民課窓口 (046-211-34



## みんなの声

投書は  
秘書広報課へ

鉄道博物館を  
「風邪も逃げた」といふ題で  
「だんだん焼き」が行なわれた。  
「だんだん焼き」は、小田急電鉄の  
車両基地があり、その施設を市民のため  
に活用させてもらつたらどうぞ」といふ  
内にあればいいと思いま  
す。

現役の車両は安全上お運  
行上難いことがあると思  
いますが、既に廃車となつ  
た車両をはじめ、小田急鉄  
道に関するものの展示は可  
能だと思います。

この鉄道博物館のような  
ことを利用ください。

▼昔話

▼善説

▼昔話

## フォトピックス



だんだんを焼いて今年も息災

など燃え盛る炎で、「だんだん」を  
焼く親子の姿が目だった。  
大谷地区でも、八幡荘下に、  
だんだん書き始めを持つ約三十  
人の老若男女が集まり、「だんだん  
焼き」が行なわれた。

炎に舞い上がる書初めに「高  
く舞うほど習字はうまくなる」と  
いった声や「目にしめる」と  
煙を避ける様に「煙にあたると  
風邪をひかないよ」といった会  
話を聞かれた。

新春恒例の「消防出初式」が  
一月十四日、小田急グラウンド  
で開かれ、市消防署や市内全分  
団、事業所で編成された自衛消  
防隊、今里自治会の自主防災組  
織が参加し、六十三年の消防功  
勞者表彰や消防演技が披露され

女子消防隊も登場



厚生病院の看護婦さんも女子消防隊で活躍

大正のはじめから同十年ころ  
までの短期間であったが、青年  
たちの間に素人相撲が流行し  
た。その要因はレクリエーション  
要素と青春エネルギーの  
発散にあったのである。

素人相撲の最も盛んな地区は  
中新田であった。河原宿(小字)  
の杉崎喜作さん(庭の高さ約  
五寸(十六・五寸)、径九尺(二  
・七二尺))の土俵を常設してあ  
った。河原が近いので砂には事  
欠くことはなく、稽古は四月か  
ら始めて、毎晩十時ごろまで取  
組みを続けた。はじめは火振り  
用いるカンチラフを三ヵ所に用  
いて照明を取つたが、電灯が引  
けてからは裸電球に変わった。

元平氏も稽古にみえた。クジ引  
きまわしは暗いが、手合させて  
縫つたものを持つていて、ときどき見物人も出て、活気  
に満ちていた。

西山氏は本場の世話を木戸御  
模山と称して横綱格。養豚家  
として名を成した飯島健氏がシ  
ミ名を「飯島山」と呼んで大開  
いた。

大正七年に西山氏は飯島吉  
氏と柏ケ谷の大豪まで指導に行  
った。こゝでは加藤千代太郎氏  
が大関格で、同地の土俵開きに  
士を誇ることができた。

無を着て「天下泰平」と書かれ  
房までついている手製の小判型  
軍団扇でさばいた。

他所から奉公に来ている者も  
相撲に加わり、毎晩三、四十人  
はざんで手渡すもので、勝者は

千八百人が成人  
式で夢と責任を語る  
式典が行われ、中峰岳志さんら  
四人が、将来への夢の実現に努  
力した道のりや成人としての責  
任などを二十歳になった抱負を  
ユーモアをまじえて話した。  
式典の最後に、参加者全員で  
「瑠璃色の地球」を合唱し閉式  
したが、この日、成人を迎えた  
千三百人の新成人が参加し会場  
は超満員であった。アマチュア  
バンドのアトラクションのあと

消防演技とは、今里の自主防  
災組織による初期消火訓練や、  
海老名商店街の海老名厚生病  
院の女子消防隊も登場し、  
救助工作車を使った水難救

助演技も行なわれ、盛んな拍手が  
来場者から送られた。

みことな人形にお父さんも感心

海老名寺境内の淨行菩薩像の前の香炉



成人への旅立ちは、明るい希望に満ちていた



海源寺境内の淨行菩薩像の前の香炉

海源寺では後宮呂や鉢洗いに、また  
西山氏は本場の世話を木戸御  
模山と称して横綱格。養豚家  
として名を成した飯島健氏がシ  
ミ名を「飯島山」と呼んで大開  
いた。

西山氏は本場の世話を木戸御  
模山と称して横綱格。養豚家  
として名を成した飯島健氏がシ  
ミ名を「飯島山」と呼んで大開  
いた。

## 海老名むかしむかし

☎33-3838

電話で海老名の昔ばなしを聞く  
1月26日～2月8日 第3話 あの世への竹え  
2月9日～2月22日 第4話 門石

(池田 武治)

の相撲のピークだったのであ  
る。その笠の上面に、右を向い  
た影刻の力エリが拳と坐して處  
する。これは力士が仕切りをする  
際に因んだものとい。この  
香炉を奉納しならうが中新田  
の相撲の勝者は見物の驚き者  
から褒美が出た。ハツ切にした  
半紙に「五銭」「十銭」などと書  
き込み、それを先が割れた竹に  
組みを纏めて、勝者は

日本に行われている國分の忠魂碑  
の祭にも招かれ、「玉門」の前で  
の祭典が行われ、玉門の前で  
四人が、将来への夢の実現に努  
力した道のりや成人としての責  
任などを二十歳になった抱負を  
ユーモアをまじえて話した。  
式典の最後に、参加者全員で  
「瑠璃色の地球」を合唱し閉式  
したが、この日、成人を迎えた  
千三百人の新成人が参加し会場  
は超満員であった。アマチュア  
バンドのアトラクションのあと

式典が行われ、中峰岳志さんら  
四人が、将来への夢の実現に努  
力した道のりや成人としての責  
任などを二十歳になった抱負を  
ユーモアをまじえて話した。

